

「住田航空奨励賞」受賞作決定

第4回「住田航空奨励賞」の受賞作は、選考委員会における審査の結果、下記のとおり決定されました。

記

受賞作

「リージョナル・ジェットが日本の航空を変える」

橋本安男 (はしもと やすお)
(桜美林大学客員教授)

[著]

屋井鉄雄 (やい てつお)
(東京工業大学大学院総合理工学研究科教授)

平成23年6月18日 発行 (株式会社成山堂書店)

受賞理由

本書は、1990年代半ばに、欧州と北米地域において、50席クラスを中心とするリージョナルジェットのビジネスモデルが出現し、2地点間を直結する新たなビジネス客のマーケットを開拓するなど大きな成功を収めた経緯、背景、原因等について詳細に調査・分析し、我が国におけるリージョナルジェットの本格導入・地方航空ネットワークへの活用のための示唆に富む内容となっている。

分析にあたっては、蓄積された予備知識に基づき、内外の文献調査、関係者への直接のインタビュー、実地の調査等を通じて、ビジネスモデルの実態、制度・契約・慣行・航空機の性能要件、経営上のリスク分担等の多くの観点から多元的に綿密な調査を行っており、既存調査で報告されていたLCCとリージョナルジェットのビジネスモデルに関する分析等から更に進んで、これまで明らかにされてこなかった大手航空会社とリージョナルジェット運航会社の間具体的な契約構造を明らかにし、契約内容等にも踏み込んで、欧米におけるリージョナルジェットの成功の理由について、緻密かつ多元的に分析したものであり、リージョナルジェットに関する現時点における分析として、実証的、多元的、総合的なものとなっており、

斬新かつ完成度の高い研究と言える。

また、我が国における可能性についても、欧米の地域航空ネットワークを支える、PSO・EASといった同種の政策的な支援方策と比較しつつ、現在までの離島路線への支援方策の課題等について具体的に分析し、新幹線と競合する羽田＝花巻路線を想定して、需要推計と事業性のシミュレーションを行い、リージョナルジェットを通じた地方空港発の国際路線の可能性に触れるなど、我が国の幹線交通や地方空港がおかれた特性なども具体的に踏まえて、リージョナルジェットの活用による我が国の地域航空ネットワークの維持・発展に向けての提言を導出している。

現在、我が国においては、2014年度のいわゆる「航空ビッグバン」に向け、行政側からは、航空会社への公租公課負担の見直し、拠点空港の機能強化とオープンスカイの積極的推進、国管理空港の運営改革などの多くの政策がパッケージで提案推進されてきており、また、継続的なコスト削減や破綻航空会社の経営再建など航空会社側からの改革も進んでおり、その中で、真に必要な航空ネットワークの維持・LCC参入促進による利用者メリットの拡大は、航空分野における成長戦略として政策面での重点分野の一つとされているところである。また、並行して、三菱リージョナルジェット（MRJ）の初飛行を来年に、我が国航空会社への初号機の引き渡しを2014年に控え、リージョナルジェットの活用と地域航空ネットワークの維持への貢献可能性についての期待が高まっている。

本書で得られたリージョナルジェットに関する情報、視点、分析結果等は、今後、航空分野において、上述の政策パッケージを具体化し、施策として積極的に推進するに当たり、参考となり得る点が多いと考えられ、航空分野の公共政策に大きく寄与する可能性があるものと判断される。また、分析の精緻さ、様々な視点、多くの手法を組み合わせた考察から、入門書、概説書という範疇を超えた分析を試みているものと認められる。

このような理由から、本書は、その研究内容について価値を認め、今後、この分野の研究を更に奨励すべきと考え、受賞に値するものとして評価したものである。

リージョナル・ジェットが 日本の航空を変える



東京工業大学教授

屋井 鉄雄

共著

桜美林大学客員教授

橋本 安男

成山堂書店